

4. 概要と考察

(1) 研究の経過

① 検証までの準備

ア. 生徒の意識調査

イ. 研究主題の設定及び教材研究と指導計画作成

ウ. 分析カードの作成

エ. 事前テスト, 事後テスト, 把持テストの準備と実施

② 研究授業計画

ア. 単元名 Lesson 7 Cultural Differences

イ. 単元の目標

○ 国による文化の違いについて理解できる。

○ S + V + O + 不定詞の文型を理解し, 運用できる。

○ S + V + O (Oが節) の文型を理解し, 運用できる。

○ 動名詞を含む文を理解し, 運用できる。

ウ. 指導計画 (総時数 6 時間)

時	ねらい	指導内容	仮説とのかかわり
1	本文の理解と新出文型の運用	パート1の内容を理解させる。 S + V + O + 不定詞の文型を用いて自己表現させる。	口頭導入で分析カードを用い, 生徒の理解を確認しながら, 授業を進める。
2	本文の理解と新出文型の運用	パート2の内容を理解させる。 S + V + O (Oが節) の文型を用いて自己表現させる。	自己表現活動では, 実際のコミュニケーションになるような場面設定をする。
3	パート1と2の内容理解と既習文型の定着	パート1, パート2の内容についての英問英答。 既習文型を用いて表現活動させる。	分析カードに回答させ自己評価させることで意欲を高める。
4	本文の理解と新出文型の運用	パート3の内容を理解させる。 動名詞を用いて自己表現させる。	内容理解で分析カードを用い, 生徒の理解を確認しながら, 授業を進める。

5 (本時)	ジェスチャーの違いについての理解と既習文型の定着	パート1, 2, 3の内容について聞いて理解させる。 既習文型を用いて表現活動をさせる。	分析カードに回答させ自己評価させることで意欲を高める。また, この結果を分析し, 指導の改善を図る。
6	本単元のまとめ	総合的言語活動をさせる。	

エ. 本時の指導…………… (略)

(2) 検証授業とその考察

① 検証の視点

ア. 聞く力が向上し, コミュニケーションを図ろうとする態度が育成できたかをみる。

(事前・事後・把持テストの分析)
(自己評価の結果の分析)

イ. 分析カードを用いることで, 生徒が意欲的に英語を聞きとろうとしたかをみる。

(授業中の生徒の活動を観察)
(自己評価の結果の分析)

② 指導の概要

ア. 分析カードについて

○ T-Fにおいては, 赤色のカードをF, 青色のカードをTとし, 一斉にカードを挙げさせ, 他人の意見に自分の意見が左右されないようにさせた後, 教師が正解の色のカードを提示し, 生徒に自己評価をさせた。

○ QandAにおいては, Questionの際, 質問の内容が分からない時, 赤色のカードを挙げさせた。これを参考に, 質問の難易を調整した。

イ. 自己表現活動との関連について

「聞くこと」の活動は, とかく理